

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

マクロコズム '98.11

◎特集 ASEANと日本を結ぶ



vol. 25

(財)青少年国際交流推進センター



# 日本と韓国の相互理解と 友好増進のための交流



▲ 総務庁青少年対策本部を表敬訪問し、駒形国際交流担参事官及び林調査官と懇談しました



▶ 岡山県庁を表敬訪問し、森生活環境部長と懇談しました（朴団長と森部長）



◀ ホストファミリーとのマッチング会場にて



▼ 倉敷科学センター訪問

歴史的にも文化的にも関係の深い日本と韓国が友好関係を増進させていくことは、両国のためのみならずアジア太平洋地域の発展のために不可欠です。両国の関係は、多くの越えるべき問題を抱えつつも少しずつ近づいてきているのではないのでしょうか。より深い相互理解と友好親善を増進していくためにより一層の努力を積み上げたいものです。本事業も、今年で3回目となり、(社)韓国青少年交流振興協会との結びつきも力強いものになりました。

期 間：平成10年7月26日(日)～8月3日(月) 9日間

場 所：東京及び岡山、山口





韓国・慶南大学校 李廷秀  
名誉教授により「今後の青  
年交流の在り方」について  
基調講演



◀ 全体会では、会場がびっしり  
になるほどの盛況

福祉問題のグループでは、青年の福祉  
への貢献について真剣に論議が行われ  
ました



◀ 「環境問題」「福祉問題（高齢者社会）」「青  
少年問題」「食文化」4つのテーマに分か  
れて分科会が行われました。食文化のグル  
ープは、実践派で一番楽しそう！





# 「東南アジア青年の船」ホストファミリー招へい

(本文 P.10)



「第25回東南アジア青年の船」の出航直前の「にっぽん丸」船上にて、駒形参事官から感謝状が手渡されました



▲ 総務庁青少年対策本部にて駒形参事官と懇談

毎年恒例となった「坂田家」でのホームビジット  
▼ 天ぷらの味が最高!



「東南アジア青年の船」第25回を記念して

## ASEAN と日本を結ぶ ～青年に夢を～

シンガポール国会議員

Mr. HAWAZI DAIPI

(「第7回東南アジア青年の船」  
シンガポール参加青年)



「東南アジア青年の船」事業の参加者からは、多くの人材が育っています。そうした多くの先輩の中から、今回は、シンガポールの国会議員に在職して活躍しているハワジ氏に同期の田中南欧子さん（第22回のナショナル・リーダーでもある）にインタビューしていただき、25回を迎えた「東南アジア青年の船」を語っていただきました。

### 〔質問〕簡単に自己紹介をお願いします。

シンガポールから来ましたハワジ・ビン・ダイピです。「第7回東南アジア青年の船」事業に参加し、シンガポールのユースリーダー（YL）を務めました。

### 〔質問〕今回の来日の理由を聞かせてください。

Japan Institute of labor（日本労働研究所）が主催する研修会に参加するためです。政労使つまり労働組合、会社経営者、政府の三者がどのように協力できるかという点について議論しました。これはシンガポールにとっても新しくはない概念ですが、日本のこの分野での経験に期待しています。日本では政府と会社経営者と労働組合が生産性や労働者の生活を安定させるためにどのように力を合わせたのかを深く知る機会となりました。労働組合と会社が企業レベルで協力し生産活動などを高めるようすを間近に見ることができました。

### 主な内容

ASEANと日本を結ぶ……………5～9	ホームステイ・ガイド(PARTⅡ)……………14～16
「東南アジア青年の船」を ささえるホストファミリー……………9～10	青少年国際理解セミナー……………17
あの感動をもう一度……………11	第14回全国大会の募集……………18
魅力あるブロック大会を目指して……………12～14	青年海外協力隊秋の募集……………19
	「世界青年の船」10周年記念パーティ……………20

### 〈表紙の説明〉

「第8回世界青年の船」  
～上岡弘二団長 写真展～  
“青春群像'96”の作品より



**(質問)「東南アジア青年の船」事業参加後の経歴について教えてください。**

大学卒業後すぐに教師になり2年ほど経って事業に参加しました。事業参加後2、3年で5年間勤めた教職を辞して、ベリタ・ハリアン新聞社に勤務し14年間あらゆる分野を担当しました。これはシンガポールで唯一のマレー語の新聞で、ベリタ・ハリアンとは日刊紙という意味です。

1997年1月に国会議員に選出された時に新聞社を辞め、National Trades Union Congressという政府の労働運動担当組織に入りました。それからずっと労働問題を担当しています。

**(質問)「東南アジア青年の船」に参加された動機は何でしたか？**

南欧子さんのような友人に会うためですよ。(笑い)「東南アジア青年の船」事業は当時シンガポールの青少年活動を熱心に行っている青年にとっては花形の事業でとても人気がありました。ですから毎年シンガポールの青年はこの事業に応募していましたが応募者全員が参加できるわけではありません。私の所属する青少年団体 Malay Youth Literary Association (マレー文学青年同盟)からも何人か参加しており自然と私もこの事業に興味を持っていました。もっと早く応募したかったのですがある事情で1980年になってしまいました。ひょっとしたら南欧子さんには会えなかったかもしれません。(笑い)

**(質問) ありがとうございます。それでユースリーダーをされていたね？**

そうです。参加青年たちが初めて会ってから2

週間後に3人の立候補者を出して選挙を行い私が選出されました。ユースリーダーに選ばれて他の参加青年よりは仕事がすこし増えました。責任も重かったですし、ソリダリティグループのためにずいぶんと尽くしました。でも、参加青年みんなもそれなりの責任を持っていましたから。

**(質問) 事業参加中の一番心に残っていることは何ですか？**

たくさんよい思い出もありますが、もう二度としたくないような思い出もあります。シンガポールで参集式を行った後、マレーシアの首都クアラルンプールへ移動し1晩か2晩過ごして、更にペナンに移動し、そこでホームステイに行きました。その時シンガポールのある女性参加青年が病気になり、ホームステイを彼女だけ中止するようホストファミリーや現地の役所と交渉したことです。この受入れのために皆さんが大変なご準備をされていたのですし、彼女を迎える予定だったファミリーはたいそう落胆していました。不愉快だとは思われるのはもっともだと思うけれども、どうか理解してほしいと言葉を尽くさなくてはなりませんでした。



国名は挙げられませんが、ホームステイではもうひとつ不愉快な体験をしました。天候や交通手段のトラブルや交通渋滞など避けられない事情もありますが、円滑に日程を行い、参加青年には最低限の宿泊設備を提供してほしいと思います。

これはある寄港地でのことで、参加青年同士で話し合い、じっくりと考えてみました。この話し合い自体は参加青年にはよい経験となったのですが、結局は受け入れの経験を積んで計画を練り、よく話し合っておけば良い結果はうまれると思います。期待はずれの天候やハプニングなどありますが、事業や種々の活動をもっと楽しむためにも計画は大切です。

この事業の寄港中のハイライトはホームステイだと思います。おそらく参加青年のほとんどが初めて全く文化の異なるよその家に泊まるのですから、カルチャーショックといえるでしょう。私がインドネシアのジャカルタでホームステイした時、同じマレー文化であると思われてきた見ず知らず人の家に初めて泊まったのですが、国が異なると、私にはその文化の大衆性を理解できませんでした。朝、衣類を着せ合うような習慣とか、全く異なる文化に触れることは良い経験とはなりません。

もうひとつ船上活動のハイライトは International Cultural Evening（国際交流の夕べ）でした。各国の文化に焦点をあてた行事で、一晚に3か国の文化と一緒に紹介するものでした。お互いの文化に触れ、この準備や発表を通じて友情が結ばれたのです。家族以上ようになりました。それぞれが責任を持って役割を担当し、実行しました。この関係は続き、その後外国青年のだれかがシンガポールに来る時は、東京や他の首都に比

べて小規模である特性のおかげもあって、よく集まりました。実際シンガポールでもよく参加青年同士よく会いました。外国からだれかが来る時には5人でも10人でも、友情をあたため合うよい機会だからと集まりました。しかし、やがて結婚し子供がうまれてくると集まれる人数は減ってきました。

### （質問）この事業に参加してどう変わりましたか？

この事業に参加する前から青少年活動には積極的に参加してきましたが、この事業では外国の多くの青年と一緒に活動することができました。

シンガポールの参加青年の間でさえ、人種や収入などの背景が異なり、青少年、福祉、教育など異なる団体に所属している青年がいました。このように多様な青年たちが出会い、この事業にそれぞれの国を代表して参加する「青年」であるという共通の目的を持っていることがわかった時、自分たちは何であるのか、を意識しました。また、お互いを一層理解しあい友情を深めるためには、まず知り合うことの必要性を感じました。

この事業で私自身の態度も変わりました。健全になったのです。友人たちばかりでなく他の人のことも思いやることができるようになりました。たくさんの人のことを思いやることができれば、たくさんの人のためになります。このことは、当時より今こそずっと大切になっていると思います。今や世界中のどの国も国際化の波からは逃れられません。1960年代中頃に始まった国際化は、経済面では特に日本を主軸として円高から海外に工場や会社を設立しました。経済活動の観点からは、相互の文化の理解が深まれば業務も一層円滑に行





われます。この事業の参加青年の年代は外国の文化を学ぶにはふさわしい時期だと思います。若い時代に接することで、お互いの文化を理解しあい、違いを認識しあい、尊重しあい、やがてその国の役人や私のように国会議員となって、当時の経験を実際に活用し、柔軟な対応ができるようになるのです。今の職場で、私は外国からの訪問者をたくさん迎えたり、また私自身も外国を訪問したりします。担当業務は、他の国を支援したり、また別の友好国から支援を受けたりすることです。かつて「東南アジア青年の船」で外国の青年と一緒にいった国際交流活動の経験があればこそ、今の私の業務もずいぶん楽だと思っております。

#### (質問)「東南アジア青年の船」事業がアセアンの青少年に与える意義とは何でしょうか？

東南アジア諸国は国際貿易を行っており、シンガポールは貿易立国ですので、外国との取り引きが大切です。1980年代中盤に加速された国際化により、東南アジアと、日本やアメリカやヨーロッパを含む他の地域との経済交流が盛んになるにつれて、他の地域の人々を知る必要性が東南アジアで高まりました。相手の国々でもそうでした。ご

存知のように東南アジアの大部分は植民地でしたから旧宗主国のことは知っていましたが、他の地域はあまり知りませんでした。この事業は、こうした状況下で青年に国際社会でのパートナーシップを具体的に学ぶ機会を与えるものです。

活動の展開や事業でのパートナーシップを体験できるからです。東南アジアの青年にとって、この事業は日本青年と知り合え、日本文化を日本青年を通じてわかりやすく学べる良い機会です。

現在東南アジアでは昨年来の経済危機を脱するために努力しなくてはなりません。今まで以上に相手の国を一層知る必要がありますが、相手との相違点や類似点を知る以上にもっと重要なことは個人レベルでの経験です。その点においてこの事業はすぐれており、またアセアンと日本の両方の青年にとってお互いの友情を育める絶好の機会だと思います。

#### (質問) シンガポールの青少年活動について教えてください。

シンガポールには青少年を対象とした省庁はありませんが、法で定められた National Youth Council<sup>6</sup> という組織があります。大臣が代表を務め種々の青少年団体のリーダーが参加しており、国の青少年政策の立案や実施を支援しています。シンガポールでは青少年を地球規模でものを考えられるよう育てたいと思っています。この事業はこの意味においてもふさわしい活動だと思います。シンガポールの青少年には国際社会の一員としての心構えを持ってほしいと願っています。つまり微視眼的にものを考えないこと、ほかの人々と一緒に働くこと、世界全体や世界中の人々の発展・



成長に貢献できることです。シンガポールは小さな国で国民にはそれぞれの果たすべき役割があり世界に向かって生きるよう教えられています。

マレーのことわざに「椰子の実の殻の下でずっと生きている蛙は世界とはこんなものだと思ってしまう。」とあります。シンガポールにだけ住んでいれば同じように考えてしまうかもしれません。ですからその椰子の実の殻を取り去りたいのです。

シンガポールの青少年には椰子の実の殻から外に出て、空を仰ぎ、世界に目を向けてはばたいてほしいと願っています。これは新しい考え方であり、決して容易なことではありませんが、私はNational Youth Councilのメンバーでもありますので、より多くのシンガポールの青少年が国際社会への貢献を一層深く考えられるように努力していきたいと思っています。

## 「東南アジア青年の船」をささえるホストファミリー

### ～船上でのホストファミリーの活躍～

日本青年国際交流機構事務局次長  
赤澤 美雪

「東南アジア青年の船」事業でホームステイが行われる6か国の代表者12名は、9月27日（日）に来日し、総務庁青少年対策本部訪問等の3泊4日のプログラムを経た後、9月30日ににっぽん丸で晴海埠頭を出発してマニラに向かった。

5日間の船上生活では、「東南アジア青年の船」事業への理解を深めるとともに、各国のホストファミリーやナショナル・リーダーとの交流活動を行い、JPYのお茶クラブやから招待を受けて茶道を体験したり、日本文化紹介のパフォーマンスの練習の成果を見学したり、リフレッシュ・クルーズとの参加者と交流など積極的にプログラムに参加し交流活動を行った。

代表者は皆、長年ホームステイ家族として、「東南アジア青年の船」事業に携わっており、



「東南アジア青年の船」事業では、日本を含めた7か国（フィリピン、ブルネイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、日本）でホームステイが行われており、青年の異文化理解に大きく貢献しています。アセアン各国でボランティアにより長年ホストファミリーを引き受けてくださっている方々の代表を日本に招いて、その貢献に感謝するプログラムが実施されています。

日本文化のみならず、他6か国の異文化に対しても貪欲で積極的であった。

ホストファミリーとナショナルリーダーには、母国語での挨拶のしかたと有名な歌を30分間でリフレッシュクルーズの参加者に紹介していただいた。発表するにあたり、準備をする様子も楽しそうであったが、すべての講座に参加すれば、10か国の言葉が覚えられるだけあって、「これで、今年どの国の参加青年を受け入れることになっても、挨拶が出来るから、すぐ仲良くなれる」という主催者側にとって、嬉しい意見も聞かれた。

また、各国でのホームステイの受入の様子などについてもお互いに報告しあったようだ。インドネシアでは、最近、ホームステイを円滑に行えるよう、「フォスター・ペアレント協会」が設立されたという話は、他の国の代表にも大いに刺激になったようで、「是非我が国でも設立してみたい、そして各国での組織がやがてネットワーク化できたらいいね」という話で盛り上がった。

わずか5日間の船上プログラムであったにもかかわらず、各国のホストファミリーがみるみるうちに、国境を越えた隣人になっていく過程は見て

いて不思議であり、これこそ交流の醍醐味であると改めて思った。

また、華僑の多いシンガポールのナショナルリーダーが、インドネシアのホストファミリーに対し、「5月のインドネシアでの暴動では、華僑が標的になったが、現在の状況はどうか？参加青年は安心して、ホームステイに行ける状況か」と心配そうに尋ねていた時、隣にいた私は、「実際に民間の協力を得て事業を行うには、多元的なものの見方が必要だ」ということを実感した。

一口に東南アジアと言っても、様々な人種、宗教が存在する。全ての参加青年にとって、ベトナムを除く各寄港地で行われているホームステイは、それを実感する最も貴重な体験になるはずである。

「東南アジア青年の船」は日本と東南アジア諸国の政府間の密接な協力で成り立っている事業であるが、同時に各国で330名を超える参加青年を受け入れようと多くの民間の方がこの事業に協力していること、及び参加青年と受入家族の中で、お互いに異文化理解を深めていることの意味の大きさを忘れてはならないと強く思う。





## あの感動をもう一度

### ～リフレッシュクルーズを振り返って～

日本青年国際交流機構副会長  
椿 景子

バンコク、シンガポール、マニラと3年間で延べ100名近い参加者が乗船したリフレッシュクルーズ。今年は参加者47名と、「東南アジア青年の船」の日本参加青年を大きく上回る大所帯で、9月30日、東京晴海港を出航しました。

このリフレッシュクルーズが発案された目的は、既参加青年が再乗船し現役青年との交流する機会を作ろうということだったことから、当初はやや固めなプログラムの予定でしたが、実際のところは講師によるレクチャーだけでなく、ロープワークや船長講話など船ならではの教室や、各種レクリエーションプログラム、そして船客の皆さんによる自主企画にいたるまで、船という空間を最大限に利用した自由な船内イベントの形がこの3年間を通じて出来上がっていきました。

この中には、リフレッシュクルーズの参加者と日本青年との世代間交流や、各国からのナショナルリーダーとホストファミリーとの国際交流などもあり、通常の「東南アジア青年の船」や「世界青年の船」で展開される以上の幅のある文化や世代を超えたとても心地の良い一つのグループが見られました。この日本青年との交流会を通じて、「真面目な青年と会話ができ、これからの日本は大丈夫」とたくさんのリフレッシュクルーズの参加者が感想を述べておられたのは印象的です。

また、国際交流に役立てばと、和紙で作った人

形や傘を持参してくださる方や、習字道具を持ち込まれ、NLやホストファミリーに習字を教えてください、お茶の道具やお菓子まで用意され、お茶席を開いてくださる方など、本当に参加者の皆さんによって作り上げられていったプログラムでした。スタッフの用意するイベント参加率も抜群で、毎回30名近い参加者があるため、企画者としてもやりがいのある毎日でした。

この船内イベントの実施にあたっては、船長をはじめとする本船クルーの皆さんにもいつも好意的にご協力いただきました。

こうして振り返ると、リフレッシュクルーズは研修船とレジャークルーズのエッセンスに、参加者の皆さんのオリジナリティが加わり、乗船者みんなで作る本当に理想的なクルーズだったように思います。

このクルーズのキーワードは「あの感動をもう一度」です。かつて「青年の船」に参加した人たちの感動を再現させることを意味していましたが、回を重ねるにつれ、リフレッシュクルーズの感動をもう一度という方も多くなりました。

今後の実施については未定ですが、また一人でも多くの方に船に戻ってきていただければと思っています。何ととっても、このクルーズは「あの感動をもう一度」が合い言葉なのですから。

## 魅力あるブロック大会を目指して

～「北信越ブロック青少年国際交流を考える集い」開催にあたって～

実行委員長 桜井真実子

長野県青年国際交流機構会長 樋口 敦子

ブロック大会開催県の当番が回ってきました。

本音としては、もう5年が経ってしまったのか、というのが私たちの実感でした。私達二人が総務庁主催の第6回「世界青年の船」に乗船させていただき、帰国して2日後が前回の長野でのブロック大会でした。その時は何も分からず参加した大会でした。そして今回企画側に立ち、どのようにしたら日本青年国際交流機構のブロック大会として、より充実したものにできるか、そしてより多くの若い会員の皆さんに集まっていただくにはどうしたらよいか、遠くからやって来るみなさんのためにスタッフと共に頭を悩ませてできたのが今回のブロック大会です。

### 仲間は自分たちでつくり出せる！

北信越ブロック共通の問題点として、総務庁の事業に参加したばかりの若い会員達の事後活動への積極的な参加が少ないということが上げられると思います。また、県で推薦した方々が戻ってこない現実もあります。若い会員達が自ら参加しようと思うような生き生きとした青年国際交流を目指し、私達長野 IYEO は昨年「Globe Party Love & ピース」という事業を企画しました。これは一昨年私達二人が静岡県の実業「ふじのくに・ユース・ウィークエンド」に参加し、それをモデ

ルにして、「国際青年の村」の縮小版といった2泊3日の県内在住の外国青年と日本人青年との交流会です。

この事業を行ったところ、国際交流という意味でそのイベントは大成功し、かつその参加者の中から今年度の派遣事業に1名合格者が出、その上これを機会に長野 IYEO が活発に活動し始めたという一石三鳥の企画となりました。

それまでの数年間、長野 IYEO は総会・壮行会をする程度で実質的な活動が全くありませんでした。やっと動き出した源である「Globe Party Love & ピース」をブロック内の他県の皆さんにもご紹介しようと、今回のブロック大会は Love & ピースと合同で行うという形をとらせていただきました。ですからスタッフには去年 Love & ピースに参加した留学生を含んだ仲間5人が加わりました。





## 「こだわり」を持って

今回のブロック大会には、こだわった点がいくつかあります。まずは先ほども書いたとおり、IYEOの会員だけでなく、約半数を県内在住の外国青年と日本人青年に参加してもらおう。これは同窓会組織になりがちな大会を、なんとかIYEOでない人にIYEOの活動を知ってもらい、IYEOの発信の場にならないかという願いがありました。

次に、若い人に気軽に参加してもらえるよう、参加費用を低く設定する。今回は一泊3食で一般が6,000円、学生が5,000円としました。これは町の施設を使わせていただくこと、パーティの際にレストランに飲み物を持ち込むなどしてできた価格です。昨年の“Globe Party Love & ピース”でも利用させていただいた駒信州国際音楽村は、多少のアクセスには問題があるものの、小高い丘にあり、周りの環境がよく、建物自体がすべて木で出来ていて、研修室・野外ステージ・みんなが憩えるロビーがあり、宿泊棟及び研修棟すべてが貸し切りのできるちょうどよい容量の施設なのです。もちろん低価格で借りることができます。

そして最後は、国際交流を目的としたプログラムをメインにし参加者全員が考えたり行動する場を多くすることでした。せっかく遠くから来て頂く会員のみなさんには何かを得てもらい、楽しんでいただきたいと考えたからです。

開催連絡が間近だったのにもかかわらず、参加者は50名の予定が約70名となり、スタッフの間では締め切り後も増える一方の参加者でうれしい悲鳴が上がりました。当初なかなか集まらなかった外国人青年もアジア諸国を中心に12名の参加



となりました。

プログラムで特に盛り上がったのは、夜のタレントショーと翌日の貿易ゲームです。タレントショーとは、皆さんの特技を発表してもらったり、ちょっとしたトークをしてもらう場です。歌あり、手話あり、踊りあり、多芸なみなさんのお陰で最後全員が長野オリンピックのテーマソング「WAになって踊ろう」を踊り終わったときは夜の10時になっていました。その中でも長野パラリンピックでの選手村のボランティア統括をしていた丸山さんのお話には、参加者みなさんが聞き入り大きな拍手が挙がっていました。貿易ゲームでは、10チームに分かれ、さまざまな国を設定し貿易のシュミレーションをし、終了後には現実とゲームとの比較などについて熱い意見が繰り広げられました。

その他にも、世界一のギター会社を一代で築きあげた松本市在住の横内祐一郎先生の講演、野外ステージでのゲーム、民族衣装を纏っての帰国報告会、イタリアンレストランでの懇談会なども好評でした。野外ステージでは参加者の懇親を深めるため、参加国の外国の問題や参加県の問題で○×ゲームや大縄跳び、一度も逢ったことのない人

同士での初体験ゲーム等がありましたが、なんといっても人間知恵の輪では、若い女の子達の手を握ることができて喜んでいる会員がたくさんいたはずです。

たった二日間で様々なプログラムを入れ、慌ただしかったかもしれませんが、県内外のみなさんが交流し、触れあえたのではないかと考えています。たくさんの不備もあり、反省点はありますが、

結局一番楽しんでいたのは私達スタッフかもしれません。そしてブロック大会終了後には、“Globe Party Love & ピース”参加者のみになりテーマ別デスクッションやゲームを行いました。

やっと動きだした「ひよこ」のような長野IYEOですが、ますますパワーをつけ今後も活動していきたいと思っていますので、これからもよろしく願いいたします。

## ホームステイをより楽しくするために

### Home Stay Guide ～ ホームステイ・ガイド～ (PART II)

前号に引続き、ホームステイのワンポイント集をお送りします。国際理解を深めるのに最も役立つと人気の高い「ホームステイ」。楽しいプログラムにするために、ちょっとした気遣いや注意が大切かもしれません。

#### 9. 生活習慣

##### (1) お祈り

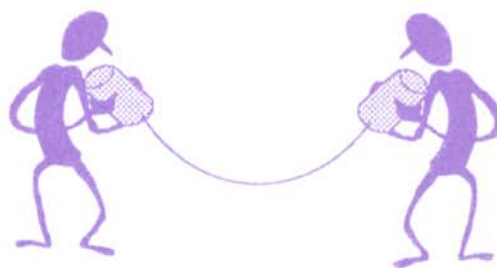
###### 〈イスラム教〉

通常、イスラム教徒は1日5回のお祈りをします。旅行中は、その数を減らすことが多いですが、お祈りの最中は話し掛けたり、中断させるようなことがないようにしてください。

###### 〈キリスト教〉

日曜日に教会へ連れて行ってあげると喜ぶ青年もいます。

イスラム教は金曜日、キリスト教は日曜日が安息日といわれています。宗教心の強い青年を受け入れる場合、この日は午前中のプログラムを組まず、午後から行動するなどの配慮も必要な場合があります。いずれにしても、青年とよく話し合って融通するのが良いでしょう。





## (2) タブー

### 〈イスラム教〉

- ・犬は不浄の動物とされているので、飼い犬がいる場合は見えない所につないでおくとよいでしょう。
- ・左手は不浄の手とされているので、左手で握手をしたり、物を渡したりしないようにしましょう。
- ・イスラム教徒の女性の場合、男性の横に座らない、男性と一緒に写真を撮らない等男性との間に距離を保つことがあります。その時は女性が間に入ってあげるなどの配慮を心がけてあげてください。

### 〈ヒンドゥ教〉

- ・左手は不浄の手とされているので、左手で握手をしたり、物を渡したりしないようにしましょう。

### 〈仏教〉

- ・タイなどでは、人の頭には精霊が宿ると信じられているため、人の頭をなでることを嫌う場合があります。

\*各宗教によって、生活スタイルが非常に異なります。青年たちから直接その習慣の意味を教えてもらうとよくわかります。

## 10. 経費

ホームステイ受け入れはボランティアを基本としているので、受け入れにかかる経費をある程度負担していただくこととなります。ただし、青年個人の出費については、個人負担させることを原則としています。

### 〈国際電話〉

ホームステイ先から自分の国へ電話をかけたいという要望があがる場合があります。自分で負担してもらうことを確認した上で、電話の使用許可を出してください。KDD (001) の場合、国際電話の使用直後、「0057」にかけて利用番号を告げると利用料金を教えてくれますので、その場で支払いが可能です。

### 〈現金支給は厳禁〉

たまに、現金を貸してくれないか、またはくれないかという要望がでることがあります。しかし、これは原則として一切断ってください。



### 〈お土産〉

ホームステイの思い出としてお土産を青年に渡して下さるご家庭が、とてもたくさんあります。しかし、これもあまり高額なものを渡していただくと、本来のホームステイの主旨から外れてしまう危険があります。青年たちは、ステイ先から戻ってから互いにもらったものを見せ合ったりするなどして、結果としてつまらないいざこざが生じる場合もあります。

ホームステイの目的とは、外国青年に日本の生の生活を体験してもらうことであって、お土産をもらうことではありません。

その為、お土産として最適なものは滞在中に撮った写真や、家族全員からのメッセージ、手作りの品などが挙げられます。どうしても日本のものと思われる場合は、上限2,000～3,000円程度のもの1点を限度としてください。また、青年たちが国内旅行中であることを考慮して、かさばるものや重たいものを避けて下さい。

皆さんと一緒に過ごした時間こそが、青年たちにとって何よりものお土産になるのです。

以上が簡単なワンポイント・アドバイスです。

各ご家庭で楽しい交流ドラマが繰り広げられることを期待しています。

また、皆さんのユニークな体験談もお待ちしています。Enjoy Your Home Stay Program!!

### 著書紹介〔おススメの一冊〕

#### ～太平洋の散歩～

「青年の船」でおなじみの渡辺輝夫船長が、本を出されました。その豊富な「船乗り」としての経験の中から、特に船長がお好きな「太平洋」の島や国、そして海にまつわるお話を紹介。

もちろんこの中には、「青年の船」「東南アジア青年の船」「世界青年の船」でのエピソードもたくさん登場します。海と船と渡辺船長の魅力がたっぷり詰め込まれた、秋の夜長におススメの一冊です。

「太平洋の散歩」 渡辺 輝夫 著  
定価 1,800円

株式会社成山堂書店 TEL 03-3357-5861





## 第21回青少年国際理解セミナー

## 「国際青年育成交流」「日中、日韓青年親善交流」帰国報告会

平成10年度の航空機による派遣事業の参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。

総務庁青少年対策本部が行う青少年国際交流事業についての全体的説明コーナーもありますので、他の事業に興味のある方にも声をかけてあげてください。

**日 時**：1999年1月31日（日） 12:30～16:30（予定）

**会 場**：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

**参加費**：無 料

**主な内容**：中国、韓国、ブラジル、デンマーク、ドミニカ共和国、フィンランド、ドイツ、ヨルダン、ジンバブエをそれぞれ訪問した団員が持ち帰った品々の展示、写真展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムが行われますので、気軽にご参加下さい。

## 第22回青少年国際理解セミナー

## 第25回「東南アジア青年の船」帰国報告会

平成10年度の第25回「東南アジア青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。平成11年度の総務庁青少年対策本部青少年国際交流事業の募集説明も行われますので、総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげてください。

**日 時**：1999年3月13日（土） 12:30～16:30（予定）

**会 場**：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

**参加費**：無 料

**主な内容**：船内及びアセアン各国寄港地（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）での活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談、そしてアセアン各国のパフォーマンス等のプログラムが行われますので気軽にご参加下さい。

**申込み先**：財青少年国際交流推進センターの「セミナー係」までFAX又は葉書にてお申込み下さい。

当日参加も歓迎ですので、多くの方に広報下さいますようお願いいたします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6F

財青少年国際交流推進センター セミナー係

電話 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436

青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第14回全国大会  
第5回青少年国際交流全国フォーラム

「夢・感動 とくしま 1998」～ 語ろう世界への架け橋～

1. 主催 総務庁青少年対策本部、財青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構、徳島県青年国際交流機構
2. 主管 日本青年国際交流機構第14回全国大会実行委員会
3. 期日 平成10年11月28日(土)～29日(日)
4. 会場 ルネッサンスリゾートナルト  
〒772-0053 鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛16-45  
TEL 0886-87-2580 FAX 0886-87-2211
5. 参加費 17,000円(非宿泊は10,000円) 中学生以下10,000円  
(食事・ベッド不要の幼児等は無料) (体験見学の参加費は別途必要)
6. 参加申込方法 前号に同封の振込用紙を切り取り、必要事項を記入の上、参加費用をお振り込み下さい。  
又は、官製葉書に通信欄と同様の内容を記載の上、お申し込み下さい。  
[葉書による申込先及び問合せ先]  
〒771-4264 徳島市多家良町小路地76-8  
事務局 田村 邦美 TEL 0886-45-0044
7. 参加申込先 郵便振込口座番号：01610-6-6951 口座名称 I.Y.E.O全国大会
8. プログラム  
11月28日(土) 13:30 受付  
14:30 開会式  
15:00 講演 「我がまちの国際交流」  
講師 矢野前鳴門市長、近藤日和佐町長、中滝井川町長  
16:30 フォーラム 「私の日本(徳島)観」  
18:30 懇談会  
11月29日(日) 9:00 閉会式  
9:30 鳴門観潮、藍染め等体験見学  
12:00 解散





近年、地球規模でボーダレス化が進展するなか、政治、経済、教育、文化等激変する国際社会に対応できる、国際交流の推進が要求されています。

我々も本事業で得た貴重な体験を生かし、「人と人」のネットワークを基盤として国際交流活動における質の向上及び組織の充実強化のため、積極的に活動を展開しなければなりません。

今春、明石海峡大橋が完成し淡路島を渡り、徳島と本州が陸続きになりました。全国の皆さん、「藍の郷・福島」に集い、豊富な知識と経験を通して、夢を語りましょう。そして、皆が人と人の架け橋となれるよう、相互理解を一層深めましょう。この大会を国際理解と世界平和への発進の一助としましょう。

## 青年海外協力隊「平成10年度秋の募集」について

青年海外協力隊は、国際協力事業団が実施する政府事業で、32年間に約16,000名の協力隊員が50数か国に及ぶ世界各地で協力活動を行っています。

総務庁青少年対策本部の青少年国際交流事業の参加者からも、多くの青年海外協力隊員が出ていることを皆さんはご存じのことと思います。また、国際協力事業団の職員にも既参加青年が多く採用されています。

自分の力を海外で役立てたいと思っている貴方！ 厳しい試験ですが、チャレンジしてみませんか。

**募集期間：**平成10年10月15日（木）～11月30日（月）

**募集規模：**約140職種、約800名を募集

**応募資格：**満20歳（平成11年4月1日現在）から満39歳（平成10年11月30日現在）までの日本国籍を持つ方

**派遣期間：**2年間（単身赴任／現地生活費・国内積立金等が支給されます。）

**選考試験：**一次選考／筆記試験（技術、英語、協力隊員適正テスト）と健康診断（書類審査）

平成10年12月20日（日）、各都道府県で実施。

二次選考／面接試験（個人面接・技術面接）と健康診断（検診）

平成11年2月3日（水）～2月12日（金）の指定日（土日除く）に東京で実施。

**訓練：**出発前に約80日の合宿訓練を受けます。

**応募方法：**所定の願書を協力隊事務局に提出のこと。締切／平成10年11月30日（消印有効）

**【問い合わせ・願書請求】** 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインズタワー6F

国際協力事業団 青年海外協力隊事務局 ☎03-5352-7261

**【詳細資料の請求】** 詳細資料は、返信用切手390円分を同封の上、次の宛先まで請求して下さい。

（〒163-8696 東京都新宿区新宿郵便局局留 協力隊事務局国内第二課育てる会ニュース係）

## 「世界青年の船」10周年記念船上パーティのお知らせ

「世界青年の船」10周年を記念して、「第11回世界青年の船」出航日の前日に、恒例のリユニオンパーティを盛大に開催します。平日なのは、少々残念なのですが、全国から「船大好き人間」が集まること楽しみにしたいと思います。ご家族、友人の皆さんと新年パーティを兼ねて、ぜひ、どうぞ！

葉書又はFAXに、氏名、住所、電話（FAX）、IYEO会員か一般かを明記の上、下記にお申し込み下さい。

日 時：1月18日（月）18時 受付／ティーサービス  
19時～ パーティ

会 場：東京晴海埠頭 「にっぽん丸」船上

会 費：7,000円（当日会場にていただきます。）

問い合わせ／申込み先：IYEOリユニオン係

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6F  
TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436



### 編集後記

「東南アジア青年の船」が25回を数えました。四半世紀もの間、アセアンと日本の青年を繋いできた貴重な事業を、より大切に発展させていきたいも

のです。激動の時代を迎えて、青年が自らの手で未来を築くことの重要性を自覚しなければならないでしょう。自分を見つめて、自分を真に大切に。

\*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申し込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 11月号 Vol.25 1998年11月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail LDP04056@nifty.ne.jp

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定 価：198円 (本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960



## 大好評!! マニラ・リフレッシュクルーズ 1998

9月30日～10月7日の日程で、第25回「東南アジア青年の船」の最初の寄港地であるマニラまで、OB/OGを対象としたリフレッシュクルーズが実施されました。参加者47名は、「第25回」の日本参加青年や各国のナショナルリーダー、アセアンのホストファミリーとの交流を積極的に行い、有意義な時間を過ごすとともに、久しぶりの船上生活、そしてフィリピンでのプログラムを楽しみました。



◀ おはよう体操  
毎朝頑張りました。7時からの



▲ レクリエーションゲームを童心に帰って楽しむ



▲ 穏やかなお人柄の畠村船長から楽しいお話をたくさん聞かせていただきました





◀ クルールの丁寧な指導でロープワークにチャレンジ  
船ならではの練習プログラム



▲ シンガポール・ナショナルリーダーのお国事情紹介



◀ 自主企画による「お習字教室」

